



福島県立梁川高等学校

平成 30 年 10 月 31 日

校長通信

Team Yanagawa

vol. 33

秋惜しみをれば遙かに町の音 (楠本憲吉)

校舎を囲む木々の葉も紅色や黄色に染まりはじめ、秋の深まりを感じる季節になりました。朝の登校指導では、先生方による落ち葉掃きも始まっています。竹箒を使ってアスファルトに落ちた葉っぱを掃き集めると、学校が美しくなるだけでなく、我々の体も徐々に温まってきました。夏の猛暑が嘘のように、朝晩は冷え込みを感じるようになりました。テレビで天気予報を見ていたら、中通りと浜通りに霜注意報が出されており、一週間ほど前の 10 月 23 日は二十四節気の一つ「霜降」であったことを思い出しました。霜が降りる季節の到来は、冬が間近に迫っている現れでもあります。鶴ヶ岡の高台から梁川の町並みや遙かに見える半田山を眺めながら、過ぎ行く秋を肌で感じる今日この頃です。



梁川の娯楽の殿堂 広瀬座について

10 月下旬から 11 月上旬まで、福島市の民家園にある旧広瀬座において、周防正行監督の新作映画「カツベン」の撮影が行われています。新聞でも撮影の様子や周防監督のコメントが大きく報道されました。現在、旧広瀬座は国指定重要文化財に指定され、歴史的価値の高い建築物として保存されていますが、**もともとは梁川町北本町にあった芝居小屋**で明治 20 (1887) 年に建てられました。当時の梁川町は「蚕都」と呼ばれ、養蚕業による経済成長が著しく、町内各地で繭や蚕種の市が開かれ、大いに賑わっていました。また、繭や蚕種は海外にも輸出され、東京や横浜に商用で出かける業者も多く、都会の文化や芸能に触れた地元の人々の間に芝居小屋建設の機運が高まっていた。経済力のある資産家 10 名が発起人となり、当時のお金で約二千四百円を出資しました。町の予算が三千円の時代ですから、相当の金額であったことがわかります。明治時代は歌舞伎や義太夫、大正時代は活動写真、昭和初期は新派劇、戦後は映画と、娯楽の中心は時代によって変化しましたが、旧広瀬座は常に梁川町民の娯楽文化を支える存在でした。しかし、テレビの急速な普及により客足が減少するとともに、度重なる広瀬川の氾濫で被害を受け、昭和 61 年の「8・5 水害」後、取り壊しが決まり、平成 2 年に解体され民家園に移築され今日に至っています。

「梁川町史」によれば、建物は木造一部二階建て、寄せ棟造り、木葉葺きで、建坪百四十八坪、二階部分を含めた延坪は二百二十坪でした。内部の一階は枱席と棧敷席、二階は三方が棧敷席になっており、収容人数は八百人以上でした。最新鋭の回り舞台や奈落・はやし座・花道も備えており、まさしく「娯楽の殿堂」でした。これだけの堂々とした芝居小屋を建てることができたということは、**梁川町の経済力の大きさと町民の文化的関心の高さ**を示すものと言えるでしょう。古い芝居小屋が保存されている町として有名な愛媛県内子町では、街並み保存事業と連動して「内子座」の建物が復元され、劇場として再スタートして、町内外の芸術文化活動の拠点になっています。もし旧広瀬座が梁川町に今も保存されていれば、梁川のシンボルとなり、文化や情報発信の拠点として有効活用できたのではないかと考えるのは私だけではないでしょう。

ところで、私が幼かった頃、旧広瀬座はまだ梁川町にあり、祖父母の家に遊びに来た折など、その特徴のある三角屋根を何度か目にした記憶があります。また、中学時代に一度だけ級友と梁川まで自転車を飛ばし、旧広瀬座で映画を見たことがありました。今思えば、それは学校と家庭からなる小さな世界しか知らなかった少年のささやかな冒険でした。思い出深い旧広瀬座が、今後さまざまな形で活用されるとともに、その歴史的価値がもう一度見直されることを期待しています。左は昭和 50 年代、右は昭和 62 年頃の広瀬座（「梁川町史」より。）



避難訓練
が行われ
ました。

10 月 17 日、避難訓練が行われました。当日は雨天のため化学室から出火したとの想定で体育館に避難しました。私からは「**火災はだれが、いつ、どこで遭うか分からない**」ことを肝に銘じ、いざという時に冷静な行動がとれるよう、日頃から避難経路を確認するなど防災意識を高めて欲しい旨の話をしました。また、お招きした伊達地方消防組合の署員の方からは、避難訓練に対する講評とともに、校舎内で防火扉が降りた時の避難の仕方についてお話をいただきました。



笑顔の華が咲いた梁華祭



10月26日と27日の両日、三年に一度の梁華祭が開催されました。今回のテーマは「咲かせよう 僕達笑顔という名の華」。このテーマのもと生徒諸君は一所懸命に準備を進めてきました。一日目は開祭式終了後、ご当地アイドルのあやのさんによる大道芸、バルーンアート、マジックを楽しみました。午後は仮装行列が行われ、梁川のメインストリートを練り歩き、梁華祭のPRに努めるとともに、町の駅やながわと梁川中央保育園において町の方や園児たちと交流を図りました。二日目の公開日では、趣向を凝らしたクラス企画、部活動作品の展示、有志によるステージ発表が行われ、梁高生の創造力とエネルギーが発揮されました。また、PTAによる銀波食堂はお客様で大いに賑わい、同窓会の部屋では同窓生の皆さんの芸術作品が展示され、来校者の目を楽しませていました。テーマどおり生徒諸君や来校者の笑顔が咲いた梁華祭でした。



校内マラソン大会が行われました

10月21日、秋晴れの空のもとで校内マラソン大会が行われました。今回で51回目となる本校の伝統行事です。平成21年度の第42回大会は、創立九十周年を記念して伊達市主催の「三浦弥平杯ロードレース大会」と合同で実施しましたが、それ以来、同日開催となり今日に至っています。生徒諸君は男子が5キロ、女子が3キロのコースで健脚を競いました。全員が制限時間内にゴールしました。男子の部は渡邊泰幸君が三年連続の優勝を果たし、女子の部は草間未咲さんが初優勝しました。



恒例の芋煮会が行われました

10月21日、校内マラソン大会終了後、恒例の芋煮会が行われました。走り終えた生徒諸君は学校に戻り、駐輪場においてクラスごと班に分かれて秋の味覚を楽しみました。生徒達は芋煮だけでなく、焼き肉、焼きそば、焼き鳥、お好み焼き、チャーハン、カレーライスなど、多種多様な食べ物に舌鼓を打っていましたが、焼きサンマ、チョコバナナ、焼きマッシュマロも登場するなど、工夫を凝らしていました。かまどから煙がたなびく中、授業では見られない生徒諸君の楽しそうな姿が印象的でした。先生方も食欲の秋を満喫していました。



部活動大会結果

- 10月19日、秋季県北支部高校野球選手権大会が行われ、本校野球部は川俣高校と連合チームを組み出場しました。結果は以下のとおりです。
一回戦 川俣・梁川連合 4-12 成蹊高校
- 10月25日、福島県高校駅伝大会が猪苗代町で行われ、本校陸上部の渡邊泰幸君（1区）、堀越雄乃君（2区）が出場しました。今回は保原高校と合同チームを組みました。

1学年進路ガイダンスが行われました

10月31日、1学年進路ガイダンスが行われました。全体会では、ライセンスアカデミーの羽根田ひとみさんから、「進路目標の達成に必要なこと」をテーマに講話をいただき、職業別ガイダンスでは、分野別に講師をお招きし、各分野の職業やその職業に就くための方法について話をお聴きしました。生徒諸君には、ガイダンスを自分の進路についてじっくり考えるきっかけとして欲しいと思います。